

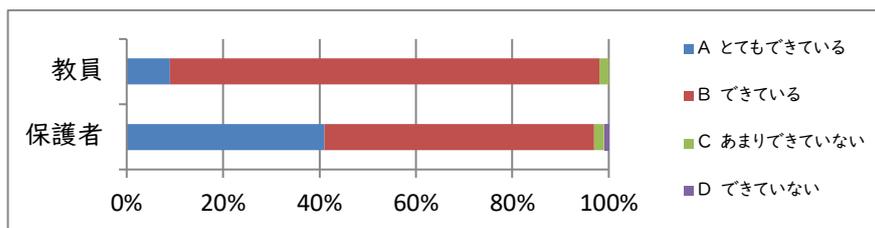
## 令和4年度 学校評価 アンケート集計結果

だて支援学校

回答数 教員58名 保護者83名

### I 教員、保護者のアンケート集計結果

- 1 【教員】 学校経営・運営ビジョンを理解して、(学校目標や重点目標を意識して)教育活動を行っている。  
 【保護者】 学校は、学校経営・運営ビジョンについてわかりやすく伝えている。

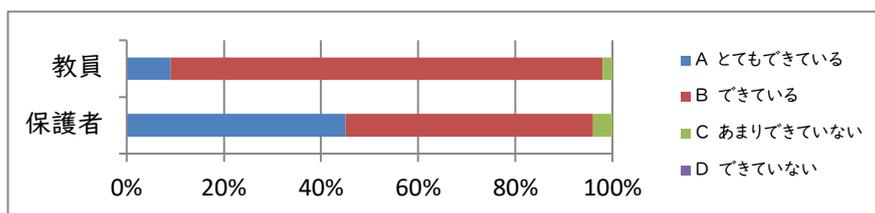


#### <分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員がC、保護者がC、Dと回答している。PTA総会や学部懇談が紙面開催になったことも影響していると考えられる。教員はさらに学校目標や重点目標を意識して日々の教育活動を行っていく必要がある。また、次年度はPTA総会や学部懇談、個別懇談等において、学校経営・運営ビジョンを保護者に分かりやすく伝えていきたい。

- 2 【教員】 児童生徒の卒業後の姿を見据え、教育活動を組織的、計画的に促し、学部及び各部等と連携・協働し教育活動を行っている。

【保護者】 学校は、卒業後の姿を見据え、教育活動を組織的、計画的に行っている。

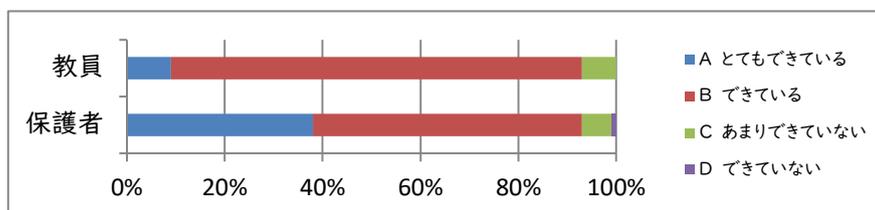


#### <分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。新型コロナウイルス感染症対策のため、授業参観が中止になるなど、直接学校に来て見ていただく機会が少なかったことも影響していると考えられる。今以上に卒業後の姿を見据えて、組織的に学部及び各部等と連携していく必要がある。また、直接的に目に見えにくい部分の内容であるため、学校だよりやホームページ等で伝えていくことが大切だと考える。

- 3 【教員】 児童生徒の興味・関心を高め効果的に学習に取り組めるよう、タブレット端末などのICT機器を授業に活用し、指導の充実を図っている。

【保護者】 学校は、パソコンやタブレットなどのICT機器を学校生活の中で活用する機会を設けている。

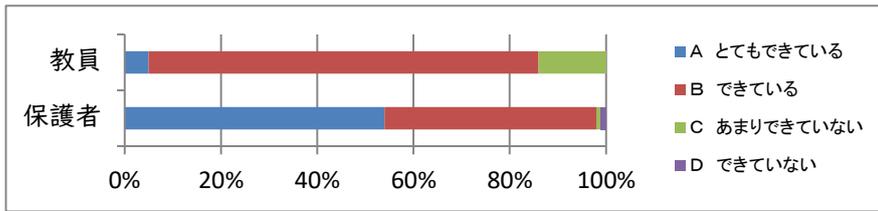


#### <分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員がC、保護者がC、Dと回答している。教員からは「ICT活用の環境が整っていない」、保護者からは「まだやっていない」との記述があった。開校初年度で、ハード面での整備が十分に整わなかったことも要因の一つと考えられる。外部講師等を活用するなどしてICT機器の活用に関する研修会を充実させるとともに、情報モラル教育にも力を入れていきたい。

4【教 員】 授業研究を軸とした校内研究を推進し授業改善を図るとともに、指導力と専門性の向上を目指し取り組んでいる。

【保護者】 学校は、授業改善に取り組み、児童生徒が分かる授業をしている。

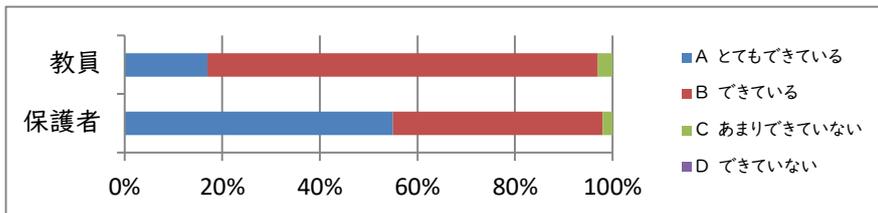


<分析>

保護者はほぼA、Bと回答しているが、教員はA、Bと回答している割合が、他の質問項目に比べて低い。教員からは「開校1年目ということもあり、研修計画、その推進がスムーズにいかなかった。」「授業研究を軸とした校内研究が難しいと思われた。」との記述があった。個々としての日々の授業改善を行っているものの、組織的な研修までには至らなかったことが要因と考えられる。また、保護者からは「よくわからない。」との記述があった。次年度は学校重点目標と関連付けて、計画的、組織的に研修に取り組み、その様子を授業参観やホームページ等で積極的に発信していきたい。

5【教 員】 児童生徒一人一人が相手を思いやりながら生活の中であいさつをしたり、丁寧な言葉で話したりできるようにしている。

【保護者】 学校は、児童生徒があいさつをしたり、丁寧な言葉で話したりできるように指導している。

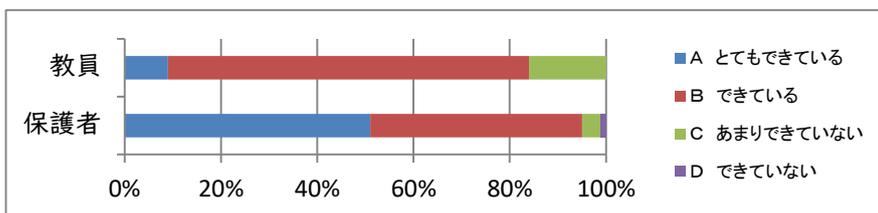


<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答している。教員からは「言葉づかいに関して、具体的な場面を通して継続して指導しているが、なかなか改善に結びつかない。」との記述があった。高等部では生徒による「あいさつ運動」を月1回程度実施している。今後も、学校全体で言語環境を整え、実践していきたい。

6【教 員】 発達の段階に応じた保健指導を工夫している。

【保護者】 学校は、児童一人一人に合わせて保健指導を工夫している。

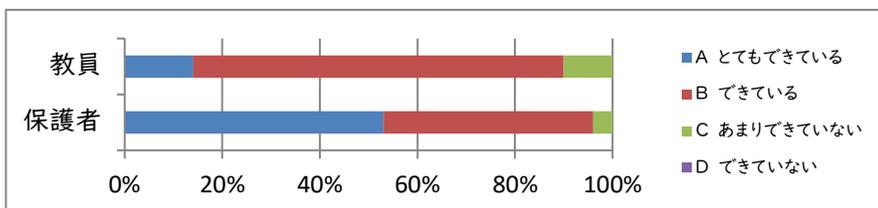


<分析>

保護者はほぼA、Bの回答であるが、教員はA、Bの割合が全質問項目の中で一番低い。高等部の教員からは「学級の実態に応じて計画し指導しているが、教材が充実していない、生活で生かすところまでに至っていない。」「性教育についての指導が必要」「発達段階に応じたの工夫が必要」との記述があった。高等部卒業後のことを見据え、学校全体で体育科や養護教諭等と連携し、教材の工夫・充実を図りながら組織的、計画的に取り組む必要がある。

7【教 員】 安心安全に給食を提供し、摂食指導、食育の充実につとめている。

【保護者】 学校は、摂食指導や食に関する指導を行い、安心安全な給食を提供している。

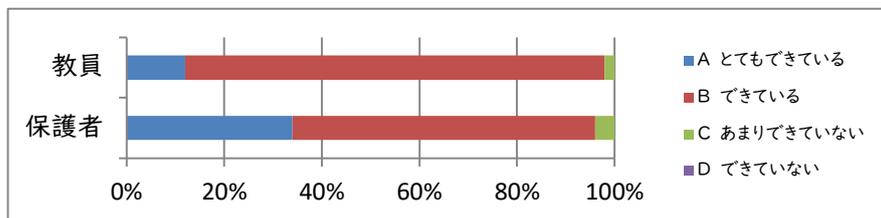


<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。教員からは「偏食の指導が難しい。」「新型コロナウイルス感染症対策から食べ方やマナーの指導が難しい。」との記述があった。保護者からは「アレルギーや摂食指導への取り組みは感じられるが、味やにおい、食感などへの抵抗を示す子どもへの取り組みがない。」との記述があった。安全安心で楽しい給食の充実に向けて、家庭や関係機関と連携し、取り組んでいきたい。

8【教員】 児童生徒の発達の段階や小・中・高の実年齢に応じたキャリア教育を行っている。

【保護者】 学校は、キャリア・パスポートや進路ガイドブックを活用し、児童生徒の自己実現において、それを保護者と共有している。

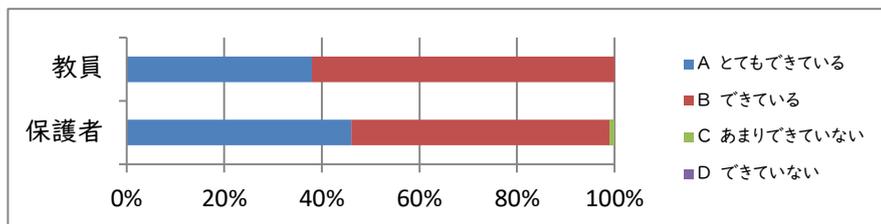


<分析>

教員、保護者がほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。小学部の保護者からは「低学年だからなのか、進路ガイドブックを活用したことがない。」との記述があった。年度途中で「キャリア・パスポート」「進路ガイドブック」が作成されたため、活用するまでには至らなかったことが要因と考えられる。今後、個別懇談等を利用して、理解を進め、活用を図っていきたい。

9【教員】 保護者対象の「進路座談会」や「進路研修会」を実施している。

【保護者】 学校は、保護者対象に「進路座談会」や「進路研修会」を実施し、保護者のニーズに応じた情報を提供している。

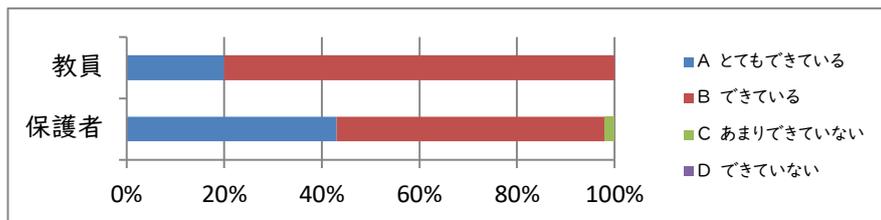


<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者も全質問項目の中でA、Bと回答している割合が一番高い。開校1年目としては、充実した研修会等が実施できたと考える。しかし、一部の保護者がCと回答していることから、より保護者のニーズに応じた企画を行い、参加者数を増やしていきたい。

10【教員】 児童生徒や保護者のニーズに応じたPTA活動を保護者とともに企画・運営し、教育活動に対する保護者の理解と協力を得られるようにしている。

【保護者】 学校は、PTAの活動を通して、教育活動に対する保護者の理解と協力を得られるようにしている。

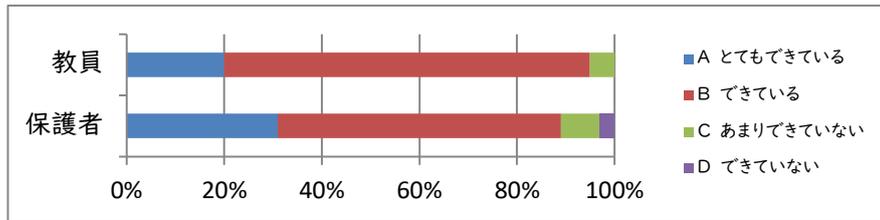


<分析>

教員は全員がA、Bと回答、保護者もほぼA、Bと回答している。開校1年目ということもあり、保護者の方が積極的に学校のために協力してくださっていることが伺える。児童生徒のために、より伊達地域に開かれた学校とするために、保護者と連携し、PTA活動の一層の充実を図っていきたい。

11 【教 員】 伊達地区での小・中学校、高等学校等に対する研修・相談支援を行っている。

【保護者】 学校は、伊達地区での小・中学校、高等学校等に対する研修・相談支援を行っていることを知っている。

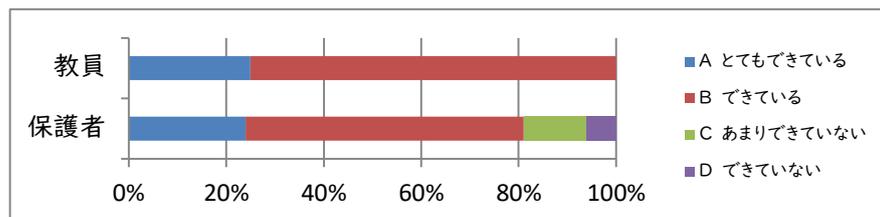


<分析>

教員はほぼA、Bと回答しているが、保護者は質問項目の中でもA、Bと回答している割合が低い。保護者からは「具体的に事例を知らない。」「よくわからない。」との記述があった。実際に研修・相談支援を行っているのだが、それが伝わっていないことが考えられる。一部の教員がCと回答していることから、校内・校外にむけて、ホームページ等で積極的に活動内容を知らせていく工夫が必要となる。

12 【教 員】 地域支援センター【だてっこ】は、地域で生活する特別な支援を必要とする幼児、児童生徒及び保護者等の相談を行っている。

【保護者】 学校にある地域支援センター【だてっこ】の場所や活動について知っている。

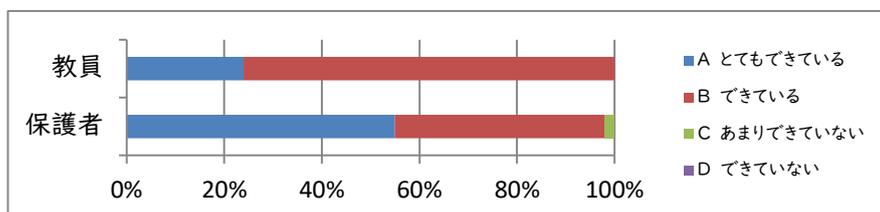


<分析>

教員は全員がA、Bと回答しているが、保護者は全質問項目の中でC、Dと回答している割合が、いちばん高い。保護者からは「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない。」との記述が多かった。また、「伊達地区の人は知らないと思う。」との記述もあった。教員はよく理解しているが、活動内容、場所が分からない、パンフレットの存在を知らない保護者もいると思われる。ホームページ等で積極的に活動内容を知らせていく工夫が必要となる。

13 【教 員】 学校は、安全な環境を整え、防災教育を行っている。

【保護者】 学校は、安全な環境を整え、防災教育を行っている。

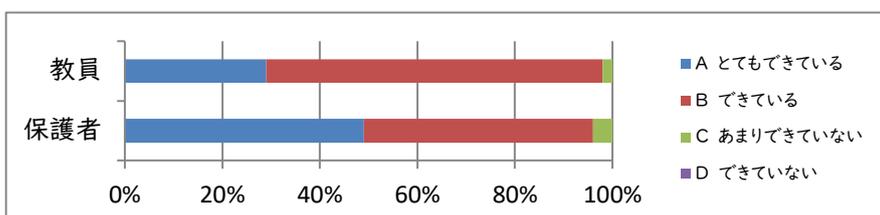


<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答している。より安全な環境を整え、児童生徒の実態に応じた防災教育を工夫し行っていきたい。

14 【教 員】 新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、学習活動を行っている。

【保護者】 学校は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、学習活動を行っている。



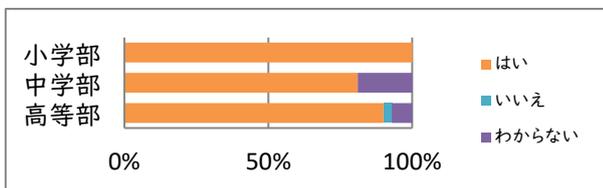
<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。教員からは「マスクができない児童もいる。指導上、密になる場合もある。」との記述があり、学習活動の充実と新型コロナウイルス感染症対策との両立の難しさに悩む姿が伺える。保護者からは「出入り口の消毒ポンプ以外の取り組みが分からない。」との記述があった。教室の清掃・除菌や、教材の拭き取りなどスクール・サポート・スタッフの存在や教員の取り組みは多いが、それが十分に伝わっていないことが伺える。新型コロナウイルス感染症対策を徹底することを継続するとともに、学習活動を工夫して行っていきたい。

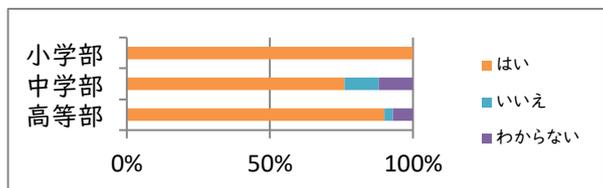
II 児童生徒のアンケート集計結果

小学部:6名 中学部:19名 高等部:29名

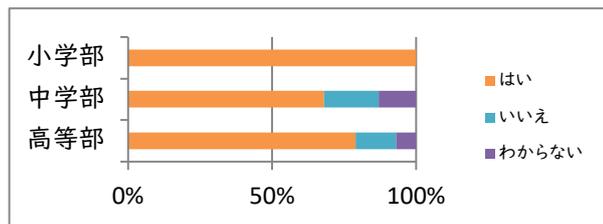
1 学校は楽しいですか。



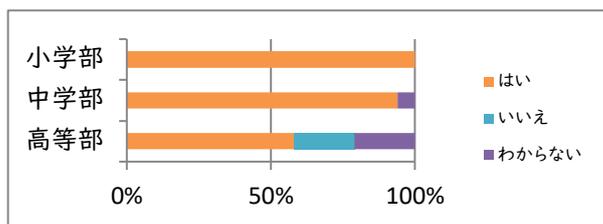
2 授業はわかりやすいですか。



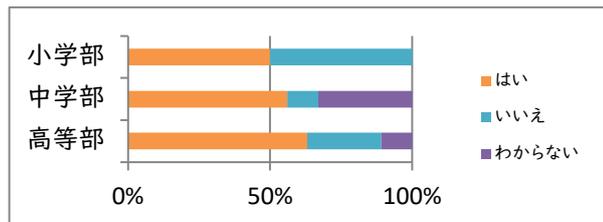
3 授業でわからないことは、先生に質問していますか。



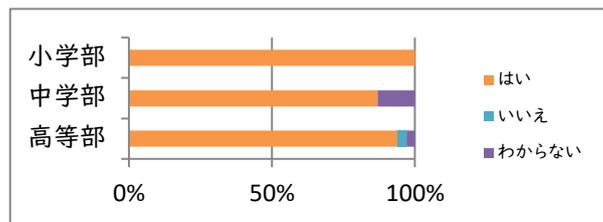
4 授業の中でパソコンやタブレットを使った学習をすることが多くありますか。



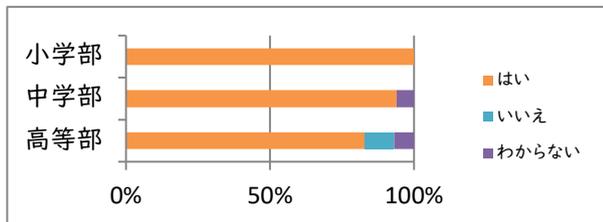
5 進路についてわかりやすく学習する機会がありますか。



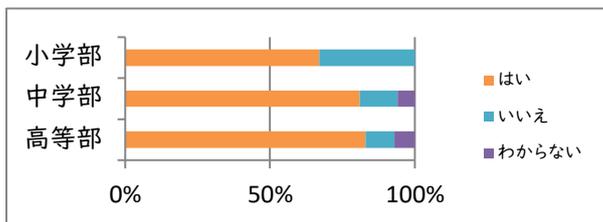
6 元気に挨拶をしていますか。



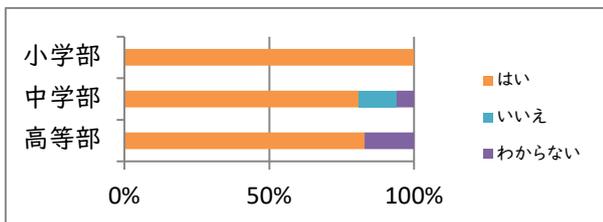
7 困ったときや、悩んだときに相談できる先生はいますか。



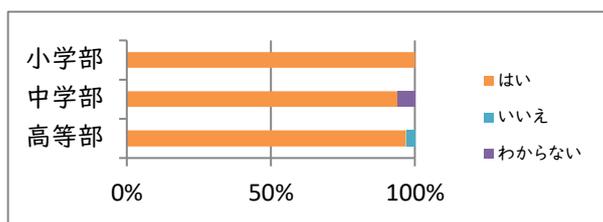
8 自分の思いや考えを話し合える友達はいますか。



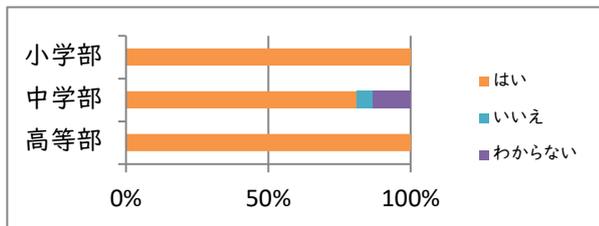
9 食事や運動など健康の大切さについて、先生から話を聞いていますか。



10 避難訓練では先生の話聞き、安全に避難することを理解していましたか。



## 11 学校は、新型コロナウイルス感染症対策をしていますか。



### <分析>

○ほとんどの児童生徒は学校は楽しいと答えているが、中学部高等部の一部の生徒が授業がわかりやすいかについて「いいえ」と回答し、わからないことを先生に質問しているかに「いいえ」と回答している。わかりやすい授業をするとともに、質問しやすい聞きやすい雰囲気づくりも大切にしたい。

○高等部ではパソコンやタブレット使った授業が少ないと回答している生徒がいる。環境整備が小学部、中学部に比べて遅れていることもあると考えられるが、今後、ICT機器を活用した授業づくりの充実を図りたい。

○進路の学習についての質問では、全体的に「いいえ」の回答が多い。特に小学部は半数が「いいえ」と回答している。学習はしているが、それが進路につながる学習であることを意識できるように、「キャリア・パスポート」などを活用しながらキャリア教育の充実を図りたい。

○あいさつについては、中学部・高等部で「いいえ」や「わからない」と一部の生徒が回答している。あいさつの大切さを伝えるとともに、きちんと挨拶をしている時には、そのことを伝えていくことも必要かと思われる。

○高等部の一部の生徒は悩みを相談する先生がいないと回答している。一方で自分の思いや考えを話し合える友達がいるかの質問には、小学部の児童で「いいえ」と回答する割合が多かった。自分の思いを伝えあう力の育成と伝えやすい環境作りを大切にしたい。

○食事や健康の大切さや感染症対策など、児童生徒の実態に応じた学習を計画し、工夫して実施していきたい。

○避難訓練では「話を聞き、安全に避難することを理解している」の質問に「いいえ」と回答している高等部の生徒がいる。避難訓練の重要性を認識でき、自分で考え判断できるように伝えていきたい。

## 12 「どんな勉強をしたいですか」「どんな授業を受けたいですか」

### <分析>

小学部では国語や算数の教科、朝の運動、校外学習の記述があった。中学部では国語、数学、音楽、外国語、運動、作業、音楽、総合、保健体育と幅広い教科の学習に対する記述があった。高等部では多様な教科の記述以外に「楽しく分かりやすい授業」「笑顔で過ごせる学校」というような記述があった。

来年度は教科学習を多く取り入れた教育課程を編成し、児童生徒の知的好奇心に応えたい。また、楽しく分かりやすい授業にするための授業研究を深めていきたい。

## 13 「どんな学校にしたいですか。」

### <分析>

「しあわせな学校」「きれいな学校」「楽しい学校」「暴力とケンカがない、自由な学校」「助け合える学校」「皆が安心して通える学校」「いじめのない学校」「人の心を尊重しみんなが仲良くできる学校」等、たくさんの記述があった。真剣に考える児童生徒の姿が浮かび、新しい「だて支援学校」への期待が強く感じられる。日々の授業の工夫、学校生活の充実に努めたい。

## III まとめ

ほとんどの項目で、教員、保護者の評価がA、Bの回答であることから、学校経営・運営ビジョンについて概ね達成されていると評価されたと思われる。

教員の評価から、授業研究の改善、ICT機器の活用方法、発達年齢に合わせた保健指導の充実が課題と考えられるので、計画的、組織的に進めていきたい。

保護者の評価から、地域支援センターの活動内容の周知やキャリア・パスポートの活用や実践などが課題と考えられる。ただ、「わからない」という記述も多かったことから、各種取り組みの様子を知ってもらうために、学校に来て実際に観ていただく機会を多くすることや、積極的に文書やホームページ等で発信していくことが必要だと思われる。

児童生徒のアンケート結果から、新しい学校への期待が伺えるので、保護者、関係機関と連携しながら、児童生徒の思いに寄り添い、学びへの思いを支援していきたい。